

山川港

山川は古くから港として利用されてきました。湾は海底火山の噴火によって形成され、外洋と大きな波から湾を保護する砂の尾根を作り出しました。この自然のバリアにより、山川は船乗りと商人の重要な拠点に発展しました。

山川港は、フランシスコ・ザビエル（1506–1552）が 1549 年にキリスト教を日本にもたらした場所であると伝えられており、また、1705 年に前田利右衛門が日本で最初のサツマイモを輸入した場所でもあります。

港は鶴のくちばしのような形をしているため、江戸時代（1603～1867）には「鶴港」として知られていました。山川港は現在も使用されており、台風が近づいたときの避難場所としても使われています。